

令和8年度までの目標	国語		算数・数学	
	自校A B層の割合	50%	自校A B層の割合	50%
令和5年度の成果	自校A B層の割合	31.6%	自校A B層の割合	42.1%

目標達成に向けた取組

3つの観点	教員の指導力向上	基礎学力の保障	学習習慣の確立
学校全体の取組	<ul style="list-style-type: none"> 「児童の学習意欲を高める授業の工夫」をテーマに、教職員の特性や児童の実態に応じた教科で研究を行い、効果的な指導方法について検討する。 3年生以上で社会と理科を中心とした教科担任制を実施して、学習指導への専門性を高め、児童の実態に即した授業を展開できるようにする。 算数科において「課題把握～見通しをもつ～自力解決～集団検討～まとめ」の学習過程を全学年で統一して、指導に系統性をもたせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリル活用期間を各学期で実施する。1・2学期は前学年の復習、3学期は当該学年の復習をする。 東京ベーシックドリル活用期間終了後に診断テストを実施し、定着度合いを確認する。 診断テストの結果を基に、放課後補習教室の対象児童を選定する。 朝学習やフレキシブルタイムに東京ベーシックドリルやミライシードのドリルパークに取り組みさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 新出漢字、音読、算数を基本的な宿題として設定し、保護者に取り組みの協力を呼び掛ける。 発達段階に応じて自主学習に取り組みさせ、取り組みの様子を紹介し合う。 江戸川っ子study week!でミライシードのドリルパークに取り組みさせる。
特に支援が必要な児童・生徒への手立て	<ul style="list-style-type: none"> 学習中に話し合い等の小グループを編成する際に、どの児童も意欲が継続し、話し合いが活発に行われるような編成になるよう努める。 児童の実態に即したためあてを立てさせたり、課題のヒントを与えたりできるような学習計画を立案する。 多くの児童が自信をもって答えられる発問を準備し、それに答えさせることで意欲を継続させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 月に2回程度、各回30分の補習を実施して、各教科の基礎・基本の定着を図る。 診断テストの結果を基に、次回の東京ベーシックドリル活用期間で取り組む課題を児童と一緒に選定する。 ミライシードのドリルパークで自分の苦手分野に取り組みさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の宿題の取り組み度合いに応じて、保護者と連携を取りながら、児童の実態に合わせた宿題の量となるよう調整をする。 江戸川っ子study week!でのドリルパークで取り組む課題を精選し、確実に取り組みさせる。
成果指標	<ul style="list-style-type: none"> 全国学力・学習状況調査の質問紙調査「国語（算数）の学習の内容はよく分かりますか」肯定的な回答 各70%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリル診断テストの誤答減少児童80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> 江戸川っ子study week!ミライシード実施率90%以上 全国学力・学習状況調査の質問紙調査「学校の授業時間以外に、普段1日当たりどれくらいの時間勉強していますか」30分以上 80%以上